

環境問題シリーズ  
第 5 章

## 山宇農園ソーラー発電所その後



～ 1年後の報告 ～

地球環境サークル 中原 幹男



市民大学修了生が大きくかかわり、市民大学での学びが形となったのが、山宇農園ソーラー発電所です。2019年12月1日に発電を開始。まる1年が経過し順調に発電を続けています。この1年で発電した量は39,000kWhでした。これをCO<sub>2</sub>に換算すると18トンになります。つまり火力発電所の代わりにCO<sub>2</sub>18トン削減したことになります。

山宇農園主山崎氏とは、市民大学22期農業グループワークチームで、講師の東京農工大淵野名誉教授と農家訪問したのがかかわりの始まりです。

山崎氏は、江戸時代三富新田開発以来代々つづく専業農家で、旧来の品種から新しい品種まで野菜栽培を手掛け、地元の直販所やスーパーなどに卸しています。

山宇農園の一部600㎡の3m上空にソーラーパネルを太陽光が差し込むように張り巡らしており、栽培物（やまわさび、キクイモ）育成に十分な光量が確保できています。（名称：ソーラーシェアリング式）

この発電所建設は、ところざわ倶楽部サークル会員6名が核となって設立した一般社団法人所沢市民ソーラーが手掛け、その6名の他に倶楽部サークル会員7名が建設資金を提供しています。

発電が順調に続けば、10年で資金償還。およそ15年後には全資金が回収できる見込みです。無事回収が完了した暁には、山宇農園に無償で譲渡できると考えています。

（一般社団法人）所沢市民ソーラーは、所沢市におけるソーラー発電普及を目指して活動しています。

みなさまの参加とご支援を！

